

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	北海道文教大学
設置者名	学校法人 鶴岡学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難	
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計			
外国語学部	国際言語学科	夜・通信	2	15	62	79	13		
人間科学部	健康栄養学科	夜・通信		6	65	73	13		
	理学療法学科	夜・通信		92	100	13			
	作業療法学科	夜・通信		90	98	13			
	看護学科	夜・通信		114	122	13			
	こども発達学科	夜・通信		156	164	13			
国際学部	国際教養学科	夜・通信		2	21	25	13		
	国際コミュニケーション学科	夜・通信		10	14	13			
(備考)									

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

UNIVERSAL PASSPORT EX (do-bunkyo.ac.jp)
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	北海道文教大学
設置者名	学校法人 鶴岡学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

[20200924-令和2年学園役員等名簿.docx \(do-bunkyo-dai.ac.jp\)](#)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	恵庭体育館	R2. 7. 1～ R4. 6. 30	地域貢献担当 恵庭市内に長く勤務していた経歴を活かし、地域貢献の視点から、学園の運営に携わる。
非常勤	株式会社 玉川組	R2. 7. 1～ R4. 6. 30	会社を経営する等、地域経済界で活躍している経歴を活かし、会社経営の視点から、学園の運営・発展に携わる。
(備考) 非常勤理事 3名中 2名を記載			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	北海道文教大学
設置者名	学校法人 鶴岡学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<p>開講前年度の12月までに来年度の授業を計画し、2月中旬を期限としてシラバスの作成、ポータルシステムへの登録へと進めている。教員には「シラバスの作成に関する研修会について」のFD研修会を開催し、資料「シラバス作成要領」に基づき、①授業の位置づけ、②授業の概要、③到着目標、④授業の方法、⑤ICT活用、⑥実務経験のある教員の教育内容、⑦課題に対するフィードバックの方法、⑧授業計画(学習内容、準備事後学習)⑨成績評価の方法、⑩教科書、⑪参考文献などを示している。シラバス作成後は、シラバスチェック専門部会規程により選出されたシラバスチェック委員により、全科目のシラバスが「シラバスチェック要領」に基づいて内容確認が行われ、3月下旬にWEB公開している。</p>	
授業計画書の公表方法	UNIVERSAL PASSPORT EX (do-bunkyo.ac.jp)
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<p>各授業科目について、事前にシラバスに記載された「評価の方法」に基づき評価を行い、単位を与えると共に、入学前に教育機関で得た単位について学内の委員会で審議を行い、適当と判断されたものについて単位を認定している。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価においては、客観的な指標の設定としてGPAを算出する制度を定めている。GPAの公表方法として、学生への通知は成績通知表に学期GPA及び通算GPAを表示することを行い、成績証明書には記載しない。各学科にはGPAに基づく学習指導の計画を策定し、学生の学修指導を行うものとする。学期GPAが4期連続1.0未満となった場合は退学を勧告する。GPAの算出方法は以下のとおりで、計算値は小数点第3位以下を四捨五入して標記する。

学期GPA

$$\frac{\text{(当該期に評価を受けた学科のGP} \times \text{その科目の単位数) の合計}}{\text{当該期の総履修登録単位数}}$$

通算GPA

$$\frac{\text{(各学期に評価を受けた科目のGP} \times \text{その科目の単位数) の合計}}{\text{総履修登録単位数}}$$

※GPとは各授業科目の5段階の成績評価に対応した評点(グレードポイント)

客観的な指標の
算出方法の公表方法

[handbook_univ.pdf \(do-bunkyo-dai.ac.jp\)](http://handbook.univ.pdf(do-bunkyo-dai.ac.jp))

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

《国際言語学科》

履修規程によって必要単位を取得し、必要な修業年限を満たしたうえで、次の能力を身につけていると認められた学生に「学士（国際言語学）」の学位を授与する。

- ・英米語コースでは、英語を実践的に運用できる知識とスキルを身につけている。(知識・技能)
- ・観光・ビジネスコースでは、グローバルに展開する当該業界を理解し、実践に応用可能な知識及び英語の技能を身につけている。(知識・技能)
- ・4技能（聴く、話す、読む、書く）の運用能力を高め、実践の場で活用することができる。(知識・技能)
- ・目指す産業界が求める技能に習熟し、実践の場で活用することができる。(知識・技能)
- ・グローバル社会の人々との信頼関係を構築し、異文化社会に対する正しい理解と協調の精神をもつことができる。(関心・意欲・態度)
- ・日常生活で適切な道德観、倫理観を持ち、主体的に行動する。(関心・意欲・態度)
- ・問題解決のために必要な情報を収集分析し、適切な判断を主体的に下すことができる。(思考・判断・表現)

《健康栄養学科》

履修規程によって必要単位を取得し、必要な修業年限を満たしたうえで、以下の能力を身につけていると認められた学生に「学士（栄養学）」の学位を授与する。

- ・地域社会の生活習慣病予防・健康増進・および臨床の場において必要とされる高度な専門知識を体系的に身につけている。(知識・技能)
- ・科学的根拠に基づいて、人を対象とした適切な栄養指導・教育を行うために必要な知識・技術を身につけている。(知識・技能)
- ・特定給食施設において適切なマネジメントを行い、特定多数人に継続して適切に栄養管理された食事を提供するための知識・技術を身につけている。(知識・技能)
- ・学んだ知識とその理解を基盤として、健康・栄養に関する問題について適切に情報を収集し、科学的に分析・検証することができる。(思考・判断・表現)
- ・対象者の栄養管理、栄養教育を行うために必要なコミュニケーション能力を身につけている。(思考・判断・表現)
- ・組織における管理栄養士設置部門や給食の運営に関する部署を統括・管理するためのマネジメント能力とチームを率いるリーダーシップを持っている。(思考・判断・表現)
- ・協働する医療・保健チームの中で適切な活動を行うことができる。(関心・意欲・態度)
- ・人々の健康の保持・増進に貢献する自覚と意欲をもち、積極的に行動し、必要な情報を発信することができる。(関心・意欲・態度)
- ・地域包括ケアシステムにおいて「食・栄養」の視点から、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、「住まい」「医療」「介護」「予防」「生活支援」が切れ目なく一体的に提供することができる。(関心・意欲・態度)

《理学療法学科》

履修規程によって必要単位を取得し、必要な修業年限を満たしたうえで、次の能力を身につけていると認められた学生に「学位（理学療法学）」の学位を授与する。

- ・理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技術)
- ・理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている。

(知識・技能)

- ・理学療法学における課題を論理的に探究する能力を身につけている。(思考・判断・表現)
- ・対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。(関心・意欲・態度)
- ・医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる。(関心・意欲・態度)
- ・幅広く教養を高める意識と、理学療法学の発展に貢献するという使命感を持っている。(関心・意欲・態度)
- ・理学療法士としての臨床場面や研究におけるコミュニケーション能力を身につけている。(思考・判断・表現)

《作業療法学科》

履修規程によって必要単位を取得し、必要な修業年限を満たしたうえで、次の能力を身につけていると認められた学生に「学士（作業療法学）」の学位を授与する。

- ・作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)
- ・作業療法学を考究し発展させるために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)
- ・作業療法評価学・作業療法治療学の基本的技能を身につけている。(知識・技能)
- ・作業療法を実践するために必要な文章力・対人的コミュニケーションの技能・プレゼンテーションとディスカッションの基本的技能を身につけている。(思考・判断・表現)
- ・作業療法理論に基づき、生活行為の向上について、対象者の自立性と個別性を尊重できる。(関心・意欲・態度)
- ・根拠に基づく作業療法（EBOT）の実践のために、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的な解決法を見いだせる。(思考・判断・表現)

《看護学科》

履修規程によって必要単位を取得し、必要な修業年限を満たしたうえで、次の能力を身につけていると認められた学生に「学士（看護学）」の学位を授与する。

- ・人間の生命や権利を尊重し、生活統合体としての人間を理解するため、幅広い知識と教養を身につけている。(知識・技能)
- ・看護を実践する能力を高めるために必要な知識・技術を修得している。(知識・技能)
- ・対象に必要な看護ケアについて科学的根拠に基づく説明ができ、看護ケアを的確に実施することができる。(知識・技能)
- ・保健医療福祉チームの一員としての役割を理解し、協働して活動する能力を高めることができる。(知識・技能)
- ・対象の健康課題を専門的知識と技術を基礎に、科学的思考力、判断力により、その解決に向けて行動することができる。(思考・判断・表現)
- ・状況を的確に判断し、その状況に応じたコミュニケーションがとれる。(思考・判断・表現)
- ・医療の進歩、健康増進に関する情報への関心を常に維持し、実践を通して自らの成長を促すことができる。(関心・意欲・態度)
- ・自己学習・自己評価をし続ける行動や態度をとることができる。(関心・意欲・態度)

《こども発達学科》

履修規程によって必要単位を取得し、必要な修業年限を満たしたうえで、次の能力を身につけていると認められた学生に「学士（こども発達学）」の学位を授与する。

- ・こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につ

けている。(知識・技能)

- ・教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている。(知識・技能)
- ・さらに、保育者、教育者、子育て支援者として、地域社会と保護者のニーズに応え、同僚と協力しつつ多様なこどもの実態に即して成長・発達を支援するための基本的資質を身につけている。(知識・技能)
- ・教育・保育・子育て支援において、同僚、保護者、地域の人々と交わり、協力関係を形成できる人間的コミュニケーション能力を身につけている。(思考・判断・表現)
- ・変化する社会の中で、教育に求められるニーズに的確に対応し、より適切な保育・教育のあり方を考え続けることができる。(思考・判断・表現)
- ・今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、不断に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている(関心・意欲・態度)

《国際教養学科》

履修規程によって必要単位を取得し、必要な修業年限を満たしたうえで、次の能力を身につけていると認められた学生に「学士(国際学)」を授与する。

- ・学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力(技能・表現力)を身につけている。(知識・技能)
- ・北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている。(知識・技能)
- ・北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的、批判的な思考や判断をする能力を身につけている。(思考・判断・表現)
- ・グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている。(関心・意欲・態度)
- ・世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている。(関心・意欲・態度)

《国際コミュニケーション学科》

履修規程によって必要単位を取得し、必要な修業年限を満たしたうえで、次の能力を身につけていると認められた学生に「学士(国際学)」を授与する。

- ・学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につけている。(知識・技術)
- ・世界と地域の視点から、自然環境、社会、文化、歴史等についての高度な専門知識を身につけている。(知識・技能)
- ・北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。(思考・判断・表現)
- ・世界各地域の活性化につなげるための異文化コミュニケーション能力を身につけている。(思考・判断・表現)
- ・グローバル社会の中で、世界の人々と共生、協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えている。(関心・意欲・態度)
- ・世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている。(関心・意欲・態度)

卒業の認定に関する
方針の公表方法

[3つのポリシー - 北海道文教大学 \(do-bunkyo.ac.jp\)](http://3つのポリシー - 北海道文教大学 (do-bunkyo.ac.jp))

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	北海道文教大学
設置者名	学校法人 鶴岡学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	事業報告及び財務情報 - 北海道文教大学 (do-bunkyo-dai.ac.jp)
収支計算書又は損益計算書	事業報告及び財務情報 - 北海道文教大学 (do-bunkyo-dai.ac.jp)
財産目録	事業報告及び財務情報 - 北海道文教大学 (do-bunkyo-dai.ac.jp)
事業報告書	事業報告及び財務情報 - 北海道文教大学 (do-bunkyo-dai.ac.jp)
監事による監査報告(書)	事業報告及び財務情報 - 北海道文教大学 (do-bunkyo-dai.ac.jp)

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称: 中期計画 2024 対象年度: 2020 年度~2024 年度)	
公表方法: plan2024.pdf (do-bunkyo-dai.ac.jp)	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 認証評価及び自己点検・評価 - 北海道文教大学 (do-bunkyo-dai.ac.jp)
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 認証評価及び自己点検・評価 - 北海道文教大学 (do-bunkyo-dai.ac.jp)
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 外国語学部 国際言語学科
教育研究上の目的 (公表方法: 外国語学部 国際言語学科 – 北海道文教大学 (do-bunkyo-dai.ac.jp))
(概要) 実践的な外国語教育、とりわけ英語教育とそれを支える日本語教育を基本とし、高度且つ急速にグローバル化する時代に対応した教育活動を展開し、時代と社会の要請に応えようとするものである。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: 3 つのポリシー – 北海道文教大学 (do-bunkyo-dai.ac.jp))
(概要) 履修規程によって必要単位を取得し、必要な修業年限を満たしたうえで、次の能力を身につけていると認められた学生に「学士 (国際言語学)」の学位を授与する。 ・英米語コースでは、英語を実践的に運用できる知識とスキルを身につけている。 (知識・技能) ・観光・ビジネスコースでは、グローバルに展開する当該業界を理解し、実践に応用可能な知識及び英語の技能を身につけている。(知識・技能) ・4 技能 (聴く、話す、読む、書く) の運用能力を高め、実践の場で活用することができる。(知識・技能) ・目指す産業界が求める技能に習熟し、実践の場で活用することができる。(知識・技能) ・グローバル社会の人々との信頼関係を構築し、異文化社会に対する正しい理解と協調の精神をもつことができる。(関心・意欲・態度) ・日常生活で適切な道德観、倫理観を持ち、主体的に行動する。(関心・意欲・態度) ・問題解決のために必要な情報を収集分析し、適切な判断を主体的に下すことができる。(思考・判断・表現)
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: 3 つのポリシー – 北海道文教大学 (do-bunkyo-dai.ac.jp))
(概要) 大学の地理的特性を生かすために、英米語コースと観光・ビジネスコースを設け、大学での学びと自らの進路が効果的に連動するよう教養科目と専門科目からなる教育課程を編成する。 1. 教育内容 (知識・技能) ・英語の 4 技能の運用能力を高めるために「語学重点」の科目群を配置する。 ・英語を学ぶ上での前提となる正しい日本語を理解することを目指すために「日本語」の科目群を配置する。 ・英米語コースでは学んだ英語を手段として、自己の主張・目的を達成する能力を養成するために「英米語」の科目群を配置する。 ・観光・ビジネスコースでは、北海道の持つ観光資源を理解し、これを国内外に広く発信し、ビジネスにつなげていく能力を養成するための「観光・ビジネス」の科目群を

<p>配置する。</p> <p>(思考・判断・表現)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の主体的な学習能力を育成し、豊かな学生生活が送れるように、1年次に「基礎ゼミ」を配置する。 <p>(関心・意欲・態度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異文化社会に対する理解と協調の精神を培う科目として異文化理解論、国際関係論等の科目を配置する。 ・適切な道德観、倫理観を養うための科目を「日本語」分野の中に複数配置する。 <p>2. 教育方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数教育による、きめ細かな指導を行い、実践的な能力の向上をはかる。 <p>3. 教育評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目の特性に応じて、試験、レポート及び成果物等により、幅広い知識の修得度を客観的に評価する。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： ）</p>
<p>(概要)</p> <p>募集停止</p>

<p>学部等名 人間科学部 健康栄養学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：健康栄養学科 - 北海道文教大学 (do-bunkyo-dai.ac.jp))</p>
<p>(概要)</p> <p>北海道文教大学が位置する北海道は、高齢化率 25%超の地域が多いなど、老年人口の割合が高くなっています。そうした社会の健全さを維持するには、予防医学の観点から疾病予防、障害予防、身体的・精神的健康の増進を図り、病気を未然に防ぐだけでなく、病気の進展を遅らせたり、再発を防いだりすることが大切です。その一翼の担い手として、地域の住民に生活習慣に関する意識を啓発し、日頃から健康増進をサポートする栄養士や管理栄養士の重要性が高まっている。健康栄養学科では、「もてなしの心」をもった豊かな人間性をはぐくみ、時代が求める幅広い知識と専門性はもとより、国際標準の業務手順にも対応できる栄養士、管理栄養士の養成をめざす。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：3つのポリシー - 北海道文教大学 (do-bunkyo-dai.ac.jp))</p>
<p>(概要)</p> <p>履修規程によって必要単位を取得し、必要な修業年限を満たしたうえで、以下の能力を身につけていると認められた学生に「学士（栄養学）」の学位を授与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会の生活習慣病予防・健康増進・および臨床の場において必要とされる高度な専門知識を体系的に身につけている。（知識・技能） ・科学的根拠に基づいて、人を対象とした適切な栄養指導・教育を行うために必要な知識・技術を身につけている。（知識・技能） ・特定給食施設において適切なマネジメントを行い、特定多数人に継続して適切に栄養管理された食事を提供するための知識・技術を身につけている。（知識・技能） ・学んだ知識とその理解を基盤として、健康・栄養に関する問題について適切に情報を収集し、科学的に分析・検証することができる。（思考・判断・表現）

- ・対象者の栄養管理、栄養教育を行うために必要なコミュニケーション能力を身につけている。（思考・判断・表現）
- ・組織における管理栄養士設置部門や給食の運営に関する部署を統括・管理するためのマネジメント能力とチームを率いるリーダーシップを持っている。（思考・判断・表現）
- ・協働する医療・保健チームの中で適切な活動を行うことができる。（関心・意欲・態度）
- ・人々の健康の保持・増進に貢献する自覚と意欲をもち、積極的に行動し、必要な情報を発信することができる。（関心・意欲・態度）
- ・地域包括ケアシステムにおいて「食・栄養」の視点から、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、「住まい」「医療」「介護」「予防」「生活支援」が切れ目なく一体的に提供することができる。（関心・意欲・態度）

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：[3つのポリシー - 北海道文教大学 \(do-bunkyo-dai.ac.jp\)](http://3つのポリシー-北海道文教大学(do-bunkyo-dai.ac.jp)))

(概要)

- ・社会で活躍する管理栄養士に必要な知識・技術を培うため、教養科目、専門基礎科目、専門科目を体系的に配置した教育課程を編成する。
- ・栄養士免許、管理栄養士国家試験受験資格、栄養教諭一種免許、食品衛生管理者及び食品衛生監視員（任用資格）を取得することができる。

1. 教育内容

(知識・技能)

- ・多様な学生に対応するため、高校で学んだ内容も含んだ基礎的な科目を配置する。
- ・栄養学、健康と病気の概念の理解に必要な専門基礎科目として「社会・環境と健康」「人体の構造と機能・疾病の成り立ち」「食べ物と健康」の科目群を配置する。
- ・管理栄養士が活躍する職場で必要とされる知識・技術を身につけるための専門科目として「基礎栄養学」「応用栄養学」「栄養教育論」「臨床栄養学」「公衆栄養学」「給食経営管理論」の科目群を配置する。

(思考・判断・表現)

- ・管理栄養士の業務に関する科学的根拠に基づく適切な計画・実行・評価・判定を行う能力を養うため「総合演習」「総合（卒業研究）」「臨地実習」の科目群を配置する。

(関心・意欲・態度)

- ・明確な管理栄養士像を造り上げるため、導入教育として「管理栄養士概論」「食・生活教育演習」を配置する。
- ・現場で管理栄養士が必要とされるスキルを身につけるため、「応用栄養学」「栄養教育論」「臨床栄養学」「公衆栄養学」「給食経営管理論」「総合演習」「臨地実習」の科目群を配置する。

2. 教育方法

- ・少人数教育を演習、実習で実施し、学生の能力に応じた教育ができるようにする。

3. 教育評価

- ・科目の特性に応じて、試験、レポート及び成果物等により、幅広い知識の修得度を客観的に評価する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：[3つのポリシー - 北海道文教大学 \(do-bunkyo-dai.ac.jp\)](http://3つのポリシー-北海道文教大学(do-bunkyo-dai.ac.jp)))

<p>(概要)</p> <p>社会において管理栄養士として活躍し、人々の健康と社会の福祉に貢献したいと考え、そのための教育に前向きに取り組む意欲のある人を受け入れる。</p> <p>(知識・技能)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理栄養士の学術的根拠となる栄養学を学ぶために、必要となる生物や化学、国語などの基本的な学力および一般的な計算能力を身につけている。 <p>(思考・判断・表現)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題に対し「どこが問題なのか」「解決には何が必要か」などを自分で考えることができる人。 <p>(関心・意欲・態度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験・実習などにおいて、他社と協働して作業を行うことができる態度を身につけている人。

<p>学部等名 人間科学部 理学療法学科</p> <p>教育研究上の目的（公表方法：理学療法学科 - 北海道文教大学 (do-bunkyo-dai.ac.jp)）</p>
--

<p>(概要)</p> <p>豊かな人間性と社会性、確かな人間尊重の理念と倫理観をもち、専門職業人としての責務を遂行する理学療法士を養成する。教育にあたっては、医師をはじめとする関連職種との共同が求められるチーム医療に必要な知識や技術力の習得、障がい者への配慮のゆきとどいた接遇の理解、内科・外科・整形外科・神経内科・小児科などの各種疾患やスポーツ障害などに対する指導法の学習に重点をおいて展開。保健・医療・福祉の各分野と深く連携しながらリハビリテーションを担う専門職として、その業務と役割の意義を十分に認識しつつ自立をめざす一方、教育者、研究者としての基礎的能力も養う。</p>
--

<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：3つのポリシー - 北海道文教大学 (do-bunkyo-dai.ac.jp)）</p>

<p>(概要)</p> <p>履修規程によって必要単位を取得し、必要な修業年限を満たしたうえで、次の能力を身につけていると認められた学生に「学位（理学療法学）」の学位を授与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。（知識・技術） ・理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている。 <p>(知識・技能)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法学における課題を論理的に探究する能力を身につけている。（思考・判断・表現） ・対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。（関心・意欲・態度） ・医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる。（関心・意欲・態度） ・幅広く教養を高める意識と、理学療法学の発展に貢献するという使命感を持っている。（関心・意欲・態度） ・理学療法士としての臨床場面や研究におけるコミュニケーション能力を身につけている。（思考・判断・表現）
--

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：[3つのポリシー – 北海道文教大学 \(do-bunkyo-dai.ac.jp\)](http://do-bunkyo-dai.ac.jp)）

（概要）

理学療法士に必要な知識・技術を培うため、教養科目・専門基礎科目、専門科目を体系的に配置した教育課程を編成する。理学療法士国家試験受験資格を得ることができる。

1. 教育内容

（知識・技能）

- ・理学療法士の知識・技術修得の基盤となる専門基礎科目として「人体の構造と機能及び心身の発達」「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」「保険医療福祉とリハビリテーションの理念」の科目群を配置する。
- ・理学療法士としての専門性を高める専門科目として「基礎理学療法学」「理学療法評価学」「理学療法治療学」「地域理学療法学」「理学療法治療学」「基礎理学療法学」の科目群を配置する。

（思考・判断・表現）

- ・理学療法分野における課題を探究する能力を養うために、4年次研究（理学療法研究Ⅰ、Ⅱ）につながる科目群（理学療法研究、理学療法研究セミナー）を配置する。

（関心・意欲・態度）

- ・医療にかかわる他の職種と適切な連携をとることができる人材を養成するためにチーム医療概論および「臨床実習」の科目群を配置する。

2. 教育方法

- ・先進的な研究成果の理解力、課題探究能力、論理的な問題解決能力を身につけるための科目群は少人数ゼミ形式で研究の基礎を学ぶための教育を展開する。

3. 教育評価

- ・科目の特性に応じて、試験、レポート及び成果物等により、幅広い知識の修得度を客観的に評価する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：[3つのポリシー – 北海道文教大学 \(do-bunkyo-dai.ac.jp\)](http://do-bunkyo-dai.ac.jp)）

（概要）

理学療法士として高度な専門知識・技術を有し、リハビリテーションチームの一員として活躍したいと考え、そのための教育に前向きに取り組む意欲のある次のような人を受け入れる。

（知識・技能）

- ・理学療法を学ぶために必要な基礎学力を持つ人。

（思考・判断・表現）

- ・論理的に考え自ら判断する人。
- ・自分の考えをわかりやすく説明できる人。

（関心・意欲・態度）

- ・多様な生き方や考え方を理解できる人。
- ・周囲に配慮し協力して行動できる人。
- ・医療や介護の現場でリハビリテーションに関わりたい人。
- ・人間の運動・動作のメカニズムについて学びたい人。
- ・障がいのある人のために貢献したい人。
- ・スポーツをする人のために貢献したい人。
- ・がん患者のリハビリテーションに関わりたい人。
- ・高齢者の健康維持・増進に貢献したい人。

学部等名 人間科学部 作業療法学科
教育研究上の目的（公表方法： 作業療法学科 - 北海道文教大学 (do-bunkyo-dai.ac.jp) ）
<p>(概要)</p> <p>人間性豊かで適切な倫理観を持ち、高度な専門的知識と技術を身につけ、臨床的实践家として活躍できる作業療法士を養成するために「宇宙一面白い作業療法学科をめざす」ことを教育理念としている。「面白さ」とは、新しい価値の発見であり創造である。人材育成の目的として、1) 人間性が豊かであること、2) コミュニケーション能力を備えていること、3) 科学の方法論と理論構成力を身につけていること、4) 作業療法学に関する高度な専門性を有していること、5) 地域における作業療法を理解していること、6) 国際性を身につけていること、をあげている。自己の行為について責任を自覚した上で自由に主体的に振る舞うことができ、他者の立場に立って考え個々の対象者の自律性・自己決定権・主体性を尊重できる作業療法士の育成を目指す。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： 3つのポリシー - 北海道文教大学 (do-bunkyo-dai.ac.jp) ）
<p>(概要)</p> <p>履修規程によって必要単位を取得し、必要な修年年限を満たしたうえで、次の能力を身につけていると認められた学生に「学士（作業療法学）」の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。（知識・技能） ・作業療法学を考究し発展させるために必要な基本的知識を身につけている。（知識・技能） ・作業療法評価学・作業療法治療学の基本的技能を身につけている。（知識・技能） ・作業療法を実践するために必要な文章力・対人的コミュニケーションの技能・プレゼンテーションとディスカッションの基本的技能を身につけている。（思考・判断・表現） ・作業療法理論に基づき、生活行為の向上について、対象者の自律性と個別性を尊重できる。（関心・意欲・態度） ・根拠に基づく作業療法（EBOT）の実践のために、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的な解決法を見いだせる。（思考・判断・表現）
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： 3つのポリシー - 北海道文教大学 (do-bunkyo-dai.ac.jp) ）
<p>(概要)</p> <p>作業療法士に必要な知識・技術を培うため、教養科目・専門基礎科目、専門科目を体系的に配置した教育課程を編成する。作業療法士国家試験受験資格を得ることができる。</p> <p>1. 教育内容</p> <p>(知識・技能)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業療法士の知識・技術修得の基盤となる専門基礎科目として「人体の構造と機能及び心身の発達」「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」の科目群を配置する。 ・作業療法士としての専門性を高める専門科目として「基礎作業療法学」「作業療法管理学」「作業療法評価学」「作業治療学」「地域作業療法学」「臨床実習」の科目群を配置する。 <p>(思考・判断・表現)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床場面における実践力・コミュニケーション能力を養うため「臨床実習」の科目群を配置する。 ・作業療法分野における課題を探究する能力を養うために、作業療法研究法演習Ⅰ、Ⅱを配置する。

(関心・意欲・態度)

- ・作業療法論に基づき、生活行為の向上について、対象者自律性と個別性を尊重できる態度を養うために生活行為向上作業療法学を配置する。

2. 教育方法

- ・問題発見とその解決および論理的思考力を養うために、課題について能動的に自ら探索することを重視した教育（アクティブラーニング）を実施する。授業の事前・事後における主体的な学修を促進する。
- ・知的好奇心すなわち問題発見能力を養うために、また、コミュニケーション能力を高めるために、グループ学習など対話型・学生参加型の授業法を取り入れる。
- ・作業療法士としての基本的技能を身につけるために、臨床実習はクリニカルクラッシュ（臨床参加型臨床実習）形式で行う。
- ・評価結果について、学生に十分なフィードバックを行う。

3. 教育評価

- ・学習成果の把握のために、各科目における到達目標を明確に提示し、成績評価を厳格に行う。
- ・筆記試験に加え、OSCE（客観的臨床能力試験）、ポートフォリオ、ルーブリックなどを用いた多面的で質の高い評価を行う。

入学者の受入れに関する方針(公表方法：[3つのポリシー－北海道文教大学 \(dobunkuyodai.ac.jp\)](http://3つのポリシー－北海道文教大学(dobunkuyodai.ac.jp)))

(概要)

作業療法士として高度な専門的知識・技術を有した人間性豊かな臨床実践家として活躍したいと考え、そのための教育に前向きに取り組む意欲のある次のような人を受け入れる。

(知識・技能)

- ・基礎学力を備えている人。

(思考・判断・表現)

- ・他の人の言葉や文章の意味を正しく理解でき、自分の考えを文章や言葉ではっきりと表現することができる人。
- ・人間の構造・機構のメカニズムや、生活とその背景について、様々な疑問をもち想像をめぐらすことができる人。
- ・作業療法に強い関心を持ち、積極的に学び続けようとする人。

(関心・意欲・態度)

- ・柔軟で誠実な姿勢で人に関わることができる人。

学部等名 人間科学部 看護学科

教育研究上の目的（公表方法：[看護学科－北海道文教大学 \(dobunkuyodai.ac.jp\)](http://看護学科－北海道文教大学(dobunkuyodai.ac.jp)))

(概要)

医学・医療がめざましい進歩をつづける現在、看護職員には、高度な専門知識や技術の修得に加え、医学・医療に関する総合的視点をもつことが求められている。また、体や心を病んだ患者の気持ちに寄り添える豊かな人間性や、人間・社会・環境への理解力、さらには深い洞察力と大局的な判断力を身につける必要がある。こうした能力を十分にそなえた看護専門職員を養成するために、看護対象者の人権と倫理の尊重、看護の役割に対する認識、責任遂行力について質の高い教育を実施。今日の保健医療システムで欠かせない、他職種領域との連携（チーム医療）による医療サービス提供の中核を担う者として、つねに問題意識を忘れず科学的に思考し、主体的に行動できる人材を育てる。

卒業の認定に関する方針（公表方法：[3つのポリシー – 北海道文教大学 \(do-bunkyo-dai.ac.jp\)](http://do-bunkyo-dai.ac.jp)）

（概要）

履修規程によって必要単位を取得し、必要な修業年限を満たしたうえで、次の能力を身につけている認められた学生に「学士（看護学）」の学位を授与する。

- ・人間の生命や権利を尊重し、生活統合体としての人間を理解するため、幅広い知識と教養を身につけている。（知識・技能）
- ・看護を実践する能力を高めるために必要な知識・技術を修得している。（知識・技能）
- ・対象に必要な看護ケアについて科学的根拠に基づく説明ができ、看護ケアを的確に実施することができる。（知識・技能）
- ・保健医療福祉チームの一員としての役割を理解し、協働して活動する能力を高めることができる。（知識・技能）
- ・対象の健康課題を専門的知識と技術基礎に、科学的思考力、判断力により、その解決に向けて行動することができる。（思考・判断・表現）
- ・状況を的確に判断し、その状況に応じたコミュニケーションがとれる。（思考・判断・表現）
- ・医療の進歩、健康増進に関する情報への関心を常に維持し、実践を通して自らの成長を促すことができる。（関心・意欲・態度）
- ・自己学習・自己評価をし続ける行動や態度をとることができる。（関心・意欲・態度）

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：[3つのポリシー – 北海道文教大学 \(do-bunkyo-dai.ac.jp\)](http://do-bunkyo-dai.ac.jp)）

（概要）

看護師に必要な知識・技術を培うため、教養科目、専門基礎科目、専門科目を体系的に配置した教育課程を編成する。看護師国家試験受験資格を得ることができる。

1. 教育内容

（知識・技能）

- ・豊かな人間性、幅広い教養と多様な個性を発展させ看護の対象である人間の生命や権利を尊重し、全人的に理解する能力を養うため、教養科目を配置する。
- ・看護師の知識・技術修得の基盤となる専門基礎科目として「人体の構造と機能及び心身の発達」「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」の科目群を配置する。
- ・看護師としての専門性を高める専門科目として「基礎看護学」「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」「在宅看護学」の科目群を配置する。
- ・人間の生活の場において、ヒューマン・ケアリングの視点に立った看護実践能力の基礎を養うため、看護技術の演習時間の充実及び臨地実習科目を配置する。
- ・看護実践に内在する倫理的諸問題を認識し、専門的価値に基づく倫理的判断力の基礎を養うために、人権擁護を基本とした専門基礎科目および専門科目を系統的に配置する。
- ・保健・医療・福祉システムの中で、他領域の職種との連携・協働の重要性を理解して、目標に向けて推進できる基礎的能力を養うため、「チーム医療概論」「地域包括ケアシステム」の科目を配置し、また学部内の連携を図って科目の強化を行う。

（思考・判断・表現）

- ・看護の学習に必要な「課題発見・探求（解決）能力」と「コミュニケーション能力」を高めるために「看護研究Ⅰ、Ⅱ」の科目を配置する。
- ・将来看護専門職業人として活躍し、発展していくための「看護の統合」科目群「看護マネジメント論」「災害看護」「国際看護」「リスクマネジメント論」などの科目を配置する。

<p>(関心・意欲・態度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護専門職業人として活躍し、発展していくために「看護の統合と実践」の実習科目「看護実践マネジメント実習」の科目群を配置する。 <p>2. 教育方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的、科学的に思考し、かつ創造的に問題や課題を探求していく能力を養うために、専門科目での演習においては協同学習やゼミナール、eラーニングを活用する。 <p>3. 教育評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目の特性に応じて、試験、レポート及び成果物等により、幅広い知識の修得度を客観的に評価する。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：<u>3つのポリシー - 北海道文教大学 (dobunkuyodai.ac.jp)</u>）</p>
<p>(概要)</p> <p>医療の高度化や看護ニーズの多様化に対応でき豊かな人間性をもった看護師になりたいと考え、そのための教育に前向きに取り組む意欲のある次のような人を受け入れる。</p> <p>(知識・技能)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護学を学ぶために必要な基礎学力を身につけている人。 <p>(思考・判断・表現)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決に向けて、思考力と判断力、行動力を発揮できる人。 <p>(関心・意欲態度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護師の仕事に興味や関心がある人。 ・協働しながら、主体的に課題に取り組むことができる人。

<p>学部等名 人間科学部 こども発達学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：<u>こども発達学科 - 北海道文教大学 (dobunkuyodai.ac.jp)</u>）</p>
<p>(概要)</p> <p>親子、家庭、社会のありようが変わり、児童虐待、児童の学力、体力低下など、こどもを取り巻く問題はますます深刻化している。健常児と障がい児を同様に受け入れる統合保育（インクルーシブ教育）や、幼稚園と保育園の一元化、幼稚園・保育園と小学校の連携といった課題も、時代の重要なテーマです。そうしたなか、保育士、幼稚園教諭と小学校教諭、特別支援学校教諭を別個に育成するのではなく、それらを統合し、幅広い能力と資質をそなえた保育者・教育者・地域の子育て支援者を養成することの重要性が高まっている。こども発達学科では、今後さらに変化する社会情勢とこども発達への確かな知見はもとより、乳幼児から児童にいたる期間の、さまざまなケースの教育に関する総合的な学識と実践力を養成。多様な教育機関でこどもたちを支え、適切に導くことのできる人材を輩出する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：<u>3つのポリシー - 北海道文教大学 (dobunkuyodai.ac.jp)</u>）</p>
<p>(概要)</p> <p>履修規程によって必要単位を取得し、必要な修業年限を満たしたうえで、次の能力を身につけていると認められた学生に「学士（こども発達学）の学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こどもの心身の成長・発達についての全般的な理解に加え、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいをもつこどものいずれかについての基本的な知識を身につけている。（知識・技能） ・教育・保育・子育て支援に関わる者として、一人一人のこどもの特徴と発達へのニーズを見きわめ、それに対応できる教育的能力を身につけている。（知識・技能）

- ・さらに、保育者、教育者、子育て支援者として、地域社会と保護者のニーズに応え、同僚と協力しつつ多様な子供の実態に即して成長・発達を支援」するための基本的資質を身につけている。（思考・判断・表現）
- ・教育・保育・子育て支援において、同僚、保護者、地域の人々と交わり、協力関係を形成できる人間的コミュニケーションを身につけている。
- ・変化する釈迦鶴野中で、教育に求められるニーズに的確に対応し
- ・今日の教育・保育・子育て支援をめぐる諸条件のもとで、より良い教育環境及び教育実践を実現するために、普段に学び、深く思慮し、適切に判断し、実行しようとする意欲・態度を身につけている（関心・意欲・態度）
- ・

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：[3つのポリシー – 北海道文教大学 \(do-bunkyo-dai.ac.jp\)](http://3つのポリシー-北海道文教大学(do-bunkyo-dai.ac.jp)))

(概要)

こども発達学科は、幼稚園・小学校・特別支援の教育者及び保育者に必要な知識・技術を培うため、教養科目、専門基礎科目、専門科目を体系的に配置した教育課程を編成する。
 {「保育士資格」「幼稚園教諭一種免許状」「小学校教諭一種免許状」} {「保育士資格」「幼稚園教諭一種免許状」「特別支援学校教諭一種免許状」} {「幼稚園教諭一種免許状」「小学校教諭一種免許状」「特別支援学校教諭一種免許状」} のいずれかの組み合わせで3つの資格・免許を取得することができる。

1. 教育内容

(知識・技能)

- ・初年次は基礎ゼミ等による科学的探究方法への入門教育や、文章表現能力形成等の基礎教育に加え、こどもの成長・発達やそれを実現する教育についての科目を配置する。
- ・教育・保育・子育て支援に関わる者として求められる知識・能力を養うため、乳幼児期のこども、学童期のこども、障がいや有する子供のそれぞれについて広く学ぶための科目を配置する。
- ・さらに、保育者・教育者・子育て支援者のいずれかについて一層深い知識を身につけるための科目を配置する。

(思考・判断・表現)

- ・教育・保育・子育て支援に関わる者としての実践力・コミュニケーション能力を養うため「学外・校外実習」の科目群を配置する。
- ・主体的・探究的に教育・保育のあり方を考える能力を養うために、卒業研究Ⅰ、Ⅱを配置する。

(関心・意欲・態度)

- ・こどもの幸せを願い、こどもとともに成長することを喜びとする資質をベースに、教育者・保育者としての資質・能力を形成するために、心理学・教育学・特別支援教育等の科学的見地を学習する科目を配置する。

2. 教育方法

- ・初年次の基礎ゼミは少人数ゼミ形式で行う。
- ・実習の前後に実習準備の講義、反省の事後指導を配置するなどして、理論と実践の結合を図り、実践能力を形成する。

4. 教育評価

- ・科目の特性に応じて、試験、レポート及び成果物等により、幅広い知識の修得度を客観的に評価する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：[3つのポリシー – 北海道文教大学 \(do-bunkyo-dai.ac.jp\)](http://3つのポリシー-北海道文教大学(do-bunkyo-dai.ac.jp)))

<p>(概要)</p> <p>こどもへのかかわりを求める資質を開花させる目的意識があり、こどもに関する教育学・保育学・特別支援教育学等の科学的理論、学問、さらには実習等の実践的な学習を意欲的に行う意思のある次のような人を受け入れる。</p> <p>(知識・技能)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本的な知識・技能を習得するための勉学の習慣をもっている人。 <p>(思考・判断・表現)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会で活躍するための基礎となる知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力をもっている人。 <p>(関心・意欲・態度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こどもの生活や成長に強い関心を持ち、何事にも積極的にチャレンジする意欲のある人。 ・いろいろな人とかかわり、意思や思いを伝えあいたいと願う人、コミュニケーション能力を常に高めたいと考える人。 ・目標の実現に向かって努力を続ける学習意欲をもっている人。 ・広い視野を持つ努力を怠らず、人々の生活に幅広く目を向け、倫理的思考能力を持ち、バランス感覚に優れた人格であると願う人。
--

<p>学部等名 国際学部 国際教養学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：国際教養学科 - 北海道文教大学 (do-bunkyo-dai.ac.jp))</p>
<p>(概要)</p> <p>英語と中国語を中心とした高いコミュニケーション能力と、主体的に共生・協働できるための世界の政治・経済を中心とした分析の方法論、そして世界諸地域と各国の文化や社会、歴史といった幅広い国際教養、さらに国際社会で活躍するための十分なコミュニケーション力や人間性、社会性を備えたグローバル・グローバル人材を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：3つのポリシー - 北海道文教大学 (do-bunkyo-dai.ac.jp))</p>
<p>(概要)</p> <p>履修規程によって必要単位を取得し、必要な修業年限を満たしたうえで、次の能力を身につけていると認められた学生に「学士（国際学）」を授与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力（技能・表現力）を身につけている。（知識・技能） ・北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている。（知識・技能） ・北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的、批判的な思考や判断をする能力を身につけている。（思考・判断・表現） ・グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている。（関心・意欲・態度） ・世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている。（関心・意欲・態度）
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：3つのポリシー - 北海道文教大学 (do-bunkyo-dai.ac.jp))</p>

<p>(概要) 「グローバル人材」と「グローバル人材」の素養を併せ持つ「国際教養人」の育成のため、「全学共通科目」、「学部共通科目」、「国際教養科目」、「キャリア形成」、「語学研修」、「卒業研究」を編成する。</p> <p>1. 教育内容</p> <p>(知識・技能)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学術的調査・研究のための英語を学ぶ「国際教養英語」科目群を配置する。 ・社会科学から見る国際関係を学ぶ「国際政治経済」科目群を配置する。 ・世界諸地域の文化や社会について学ぶ「国際地域研究」科目群を配置する。 <p>(思考・判断・表現)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元地域について学び、地域振興や地域貢献、またキャリア意識にもつなげる北海道スタディーズ科目群を配置する。 ・各学科の専門科目などを通じた学習を基に、自分が専門的に研究するディシプリンを定め、たうえで参加する「卒業研究プロジェクトⅠ～Ⅱ」を配置する。 <p>(関心・意欲・態度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元地域について学び、地域振興や地域貢献、またキャリア意識にもつなげる北海道スタディーズ科目群を配置する。 <p>2. 教育方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材育成の目的に則して、講義形成の授業の他に、学生の主体的な学びを引き出すために、少人数授業、習熟度別授業、双方向的・学生参加型授業、課題解決・探究型授業、ICTを活用した授業などのアクティブラーニングを実践する。 ・研修（国内外）、海外留学、インターンシップ（国内外）、アウトドア・ツーリズムなどの体験的な学修活動の充実を図るなど、教育方法の質的転換を図る。 ・外国人教員による授業の比率を高め、外国語学修環境を提供する。 ・学生面談などの授業時間外での学修指導の充実を図る。 <p>3. 教育評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスに明示された各科目の到達目標、学修内容、準備学修の内容・時間、成績評価の方法・基準に基づいて客観的に評価する。 ・海外留学・研修、インターンシップは研修地での評価にもとづき単位認定を行う。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：3つのポリシー – 北海道文教大学 (do-bunkyo-dai.ac.jp)）</p>
<p>(概要) グローバル化が進む社会において不可欠な国際的な視点から、グローバル社会の課題を解決するとともに、北海道を愛し、世界に発信できる意欲をもつ次のような人材を求める。</p> <p>(知識・技能)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語の高等学校卒業相当の知識を有している人。 ・国際的な事象を理解するための社会の高等学校卒業相当の知識を有している人。 ・基礎・基本的な知識・技能を習得するための勉学の習慣を持っている人。 <p>(思考・判断・表現)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際社会で活躍するための基礎となる知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を持っている人。 <p>(関心・意欲・態度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語による世界理解と自己表現が可能な言語能力の獲得に、強い意欲を持っている人。 ・北海道と世界に強い関心を持ち、基礎学力と論理的思考を持ち、課題に取り組む意欲を持っている人。 ・自らの将来を、海外生活や地域の現場で協働する意欲を持っている人。

<p>学部等名 国際学部 国際コミュニケーション学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：国際コミュニケーション学科 – 北海道文教大学）</p>

do-bunkyo-dai.ac.jp
<p>(概要)</p> <p>高い外国語コミュニケーション能力を基礎とし、多文化に対応できる異文化コミュニケーション能力および人と人をつなぐコミュニケーション能力を生かし、世界と日本、特に北海道において多様な社会文化的背景を持った海外からの来訪者をもてなす心・海外と地域の人と人をつなげるための知識を身につけることで、多文化共生社会を構築し、地域の発展に貢献できる高い国際コミュニケーション力を持つ「グローバル人材」を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：3つのポリシー – 北海道文教大学 (do-bunkyo-dai.ac.jp)）</p> <p>(概要)</p> <p>履修規程によって必要単位を取得し、必要な修業年限を満たしたうえで、次の能力を身につけていると認められた学生に「学士（国際学）」を授与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学術目的の言語使用に主眼をおいた英語及び日本語の高度な運用能力を身につけている。（知識・技術） ・ 世界と地域の視点から、自然環境、社会、文化、歴史等についての高度な専門知識を身につけている。（知識・技能） ・ 北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。（思考・判断・表現） ・ グローバル社会の中で、世界の人々と共生、協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えている。（関心・意欲・態度） ・ 世界と繋がるために地域社会を理解し、その活性化に向けて発信できる国際感覚を身につけている。（関心・意欲・態度）
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：3つのポリシー – 北海道文教大学 (do-bunkyo-dai.ac.jp)）</p> <p>(概要)</p> <p>「グローバル人材」と「グローバル人材」の素養を併せ持つ「国際教養人」の育成のため、「全学共通科目」、「学部共通科目」、「国際コミュニケーション科目」、「キャリア形成」、「語学研修」、「卒業研究」を編成する。</p> <p>1. 教育内容</p> <p>(知識・技能)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ビジネスや観光場面を中心とした言語使用に焦点をあてた英語と中国語の運用能力の養成のための「言語プロフェッショナル科目」を配置する。 ・ 異文化理解力と異文化コミュニケーション力を高める「国際・異文化コミュニケーション科目」の2つの科目群を開設する。 <p>(思考・判断・表現)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元地域について学び、「地域振興や地域貢献、またキャリア意識にもつなげる北海道スタディーズ科目群を配置する。 ・ 各学科の専門科目などを通じた学習を基に、自分が専門的に研究するディシプリンを定めた上で参加する「卒業研究プロジェクトⅠ～Ⅱ」を配置する。 <p>(関心・意欲・態度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の主体的な学びを引き出すために、ニセコ国際研修、短期語学研修、インターシップ（国内外）、アウトドア・ツーリズムなどの体験的な学修活動の充実を図る。 <p>2. 教育方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人材育成の目的に則して、講義形成の授業の他に、学生の主体的な学びを引き出すために、少人数授業、習熟度別授業、双方向的・学生参加型授業、課題解決・探究型授業、ICTを活用した授業などのアクティブラーニングを実践する。

<ul style="list-style-type: none"> ・研修（国内外）、海外留学、インターンシップ（国内外）、アウトドア・ツーリズムなどの体験的な学修活動の充実を図るなど、教育方法の質的転換を図る。 ・外国人教員による授業の比率を高め、外国語学修環境を提供する。 ・学生面談などの授業時間外での学修指導の充実を図る。
<p>4. 教育評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスに明示された各科目の到達目標、学修内容、準備学修の内容・時間、成績評価の方法・基準に基づいて客観的に評価する。 ・海外留学・研修、インターンシップは研修地での評価にもとづき単位認定を行う。
<p>入学者の受入れに関する方針(公表方法:3つのポリシー – 北海道文教大学 (do-bunkyo-dai.ac.jp))</p>
<p>(概要)</p> <p>グローバル化が進む社会において不可欠な国際的な視点から、グローバル社会の課題を解決するとともに、北海道を愛し、世界に発信できる意欲をもつ次のような人材を求める。</p> <p>(知識・技能)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語の高等学校卒業相当の知識を有している人。 ・基礎・基本的な知識・技能を習得するための勉学の習慣を持っている人。 <p>(思考・判断・表現)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際社会で活躍するための基礎となる知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を持っている人。 <p>(関心・意欲・態度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語による世界理解と自己表現が可能な言語能力の獲得に、強い意欲を持っている人。 ・北海道と世界に強い関心を持ち、基礎学力と論理的思考を持ち、課題に取り組む意欲を持っている人。 ・自らの将来を、海外生活や地域の現場で協働する意欲を持っている人。

②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法：学園の運営組織 – 北海道文教大学 (do-bunkyo-dai.ac.jp)</p>
--

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
外国語学部	—	1人	1人	1人	0人	0人	3人
人間科学部	—	33人	21人	27人	6人	7人	94人
国際学部	—	10人	5人	1人	0人	0人	16人
大学院リハビリ	—	1人	0人	0人	0人	0人	1人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0人			76人				76人

各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)	公表方法： 教員一覧 - 北海道文教大学 (do-bunkuyodai.ac.jp)
c. F D (ファカルティ・ディベロップメント) の状況 (任意記載事項)	

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
外国語学部	募集停止	募集停止	%	300人	153人	51%	－人	2人
人間科学部	450人	421人	93.5%	1800人	1618人	89.8%	－人	1人
国際学部	100人	55人	55%	100人	55人	55%	－人	0人
合計	550人	476人	86.5%	2200人	1826人	83%	－人	3人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
外国語学部	53人 (100%)	7人 (13%)	35人 (66%)	11人 (21%)
人間科学部	420人 (100%)	8人 (2%)	393人 (93%)	19人 (5%)
合計	473人 (100%)	15人 (3%)	428人 (91%)	30人 (6%)
(主な進学科・就職先) (任意記載事項)				
国際言語学科：卸・小売り (23.9%) 運輸・郵便 (15.2%) 情報通信 (15.2%) 宿泊・飲食 (8.7%) 健康栄養学科：栄養士・管理栄養士・公務栄養士・栄養教諭 (67.1%) 総合職・一般職 (27.4%) 理学療法学科：医療機関 (92.2%) 施設等 (7.8%) 作業療法学科：医療機関 (93.3%) 施設等 (6.1%) 看護学科：医療法人等 (46.3%) 公的病院 (34.2%) 大学病院 (17.1%) こども発達学科：小学校・特別支援教諭 (22.2%) 幼稚園教諭 (24.2%) 保育士 (34.4%)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)

	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>開講前年度の12月までに来年度の授業を計画し、2月中旬を期限としてシラバスの作成、ポータルシステムへの登録へと進めている。教員には「シラバスの作成に関する研修会について」のFD研修会を開催し、資料「シラバス作成要領」に基づき、①授業の位置づけ、②授業の概要、③到着目標、④授業の方法、⑤ICT活用、⑥実務経験のある教員の教育内容、⑦課題に対するフィードバックの方法、⑧授業計画（学習内容、準備事後学習）⑨成績評価の方法、⑩教科書、⑪参考文献などを示している。シラバス作成後は、シラバスチェック専門部会規程により選出されたシラバスチェック委員により、全科目のシラバスが「シラバスチェック要領」に基づいて内容確認が行われ、3月下旬にWEB公開している。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>各授業科目について、事前にシラバスに記載された「評価の方法」に基づき評価を行い、単位を与えると共に、入学前に教育機関で得た単位について学内の委員会で審議を行い、適用と判断されたものについて単位を与える。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
外国語学部	国際言語学科	124 単位	有・無	44 単位 (各学期 26 単位)
人間科学部	健康栄養学科	124 単位	有・無	44 単位 (各学期 26 単位)
	理学療法学科	124 単位	有・無	44 単位 (各学期 26 単位)
	作業療法学科	124 単位	有・無	44 単位 (各学期 26 単位)
	看護学科	124 単位	有・無	44 単位 (各学期 26 単位)
	こども発達学科	124 単位	有・無	44 単位 (各学期 26 単位)
国際学部	国際教養	124 単位	有・無	44 単位 (各学期 26 単位)
	国際コミュニケーション学科	124 単位	有・無	44 単位 (各学期 26 単位)
GPAの活用状況 (任意記載事項)		北海道文教大学奨学金		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法： 大学案内

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
外国語学部	国際言語学科	810,000円	募集停止	150,000円	教育充実費
人間科学部	健康栄養学科	810,000円	200,000円	300,000円	教育充実費・実験実習費
	理学療法学科	800,000円	300,000円	500,000円	教育充実費・実験実習費
	作業療法学科	800,000円	300,000円	500,000円	教育充実費・実験実習費
	看護学科	1,000,000円	300,000円	500,000円	教育充実費・実験実習費
	こども発達学科	800,000円	200,000円	250,000円	教育充実費・実験実習費
国際学部	交際教養学科	810,000円	200,000円	150,000円	教育充実費・演習費(1年次)
		810,000円		250,000円	教育充実費・演習費(2年次以降)
	国際コミュニケーション学科	810,000円	200,000円	150,000円	教育充実費・演習費(1年次)
		810,000円		250,000円	教育充実費・演習費(2年次以降)

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)
 学生一人ひとりの学力に応じて学修を行うための環境の構築と、経済的不安がなく学修に専念できるための奨学金制度の充実をはかることにより学修を支援する。学修環境としては、1年生は入学直後に初年度研修を行い、上級生や教職員と親睦を図りながら大学生活に慣れることを目標としている。クラス担任、アドバイザー制度をおき、修学及び進路についての個別指導を入学時から行い、日常的に相談に応じ助言を与える学生指導上のシステムの他、オフィスアワーを設けて、学部・学科を問わず専任教員と話し合い、指導を受けることができるようにしている。経済面では、成績優秀、課外活動優秀者、経済的理由により修学が困難な者に対する給付奨学金、入書時成績特待、スポーツ特待、緊急支援に対する減免、海外留学奨励金を設けている。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)
 就職活動全般を組織的にサポートしていく「就職等支援委員会」を設けている。学外においては道内外の企業への周知活動と求人開拓を進め、学内においては学生たちが広い視野から将来の方向性を定め、意識を高めていけるよう情報提供と個別指導・相談を行う。年々早まる就職活動にそなえ、就職活動準備講座や就職支援セミナーを計画的にスタートさせ、ひとりひとりの個性や資質、希望に沿うようにきめ細かに個人面談を行い、段階的に導いていく。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)
 保健師と看護師が常勤する保健管理センターにおいて、学内で負傷したり気分が悪くなった場合は適切な処置、対応をする。学生生活において様々な問題に悩んだときはカウンセリング室で臨床心理士にカウンセリングを受けることができる。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：[教員一覧 - 北海道文教大学 \(do-bunkyo-dai.ac.jp\)](http://do-bunkyo-dai.ac.jp)